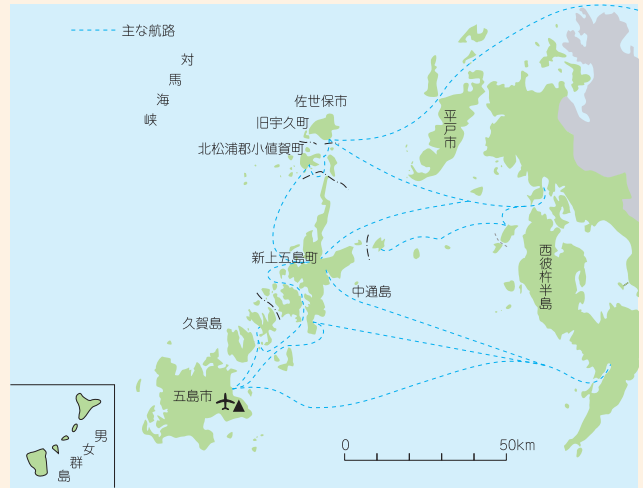


みんなで考えてみよう!
五島列島にはどのような特色があるのだろうか?

(7) 五島列島

ア 豊かな自然

五島列島は、長崎県本土の西方、約100kmの海上に位置し、大小約150の島々がほぼ北東から南西方向に約150kmにわたって連なる列島である。



五島列島

ほとんどの島は山がすぐ海にせまり、海岸には多くの断崖が見られる。島と島の間はせまく、長い瀬戸となっており、海岸線は出入りが多い。また、福江島の鬼岳などの火山地形も見られる。このように、五島列島の地



鬼岳

(提供:長崎県観光連盟)

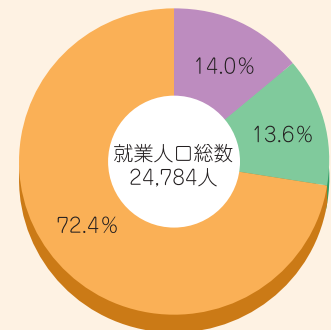
形は変化に富み、美しい景観をなしており、平戸や九十九島とともに1955(昭和30)年、西海国立公園に指定されている。

2004(平成16)年8月には、福江市、富江町、玉之浦町、三井楽町、岐宿町、奈留町が合併して五島市が、若松町、上五島町、新魚目町、有川町、奈良尾町が合併して新上五島町が誕生した。

イ 新たな産業開発

五島列島は、肉用牛、葉たばこを中心とした農業と、一本づりやさし網などを中心とする漁業が主な産業である。しかし、自然に左右されて生産量が安定せず、また、大消費地に遠いことから農産物や海産物の出荷に不利なことが多く、その対策が望まれていた。

そこで、農業においては、早出しじゃがいもや茶の生産、アスパラガスやいちごなどのビニールハウス栽培や



第1次産業 3,468人

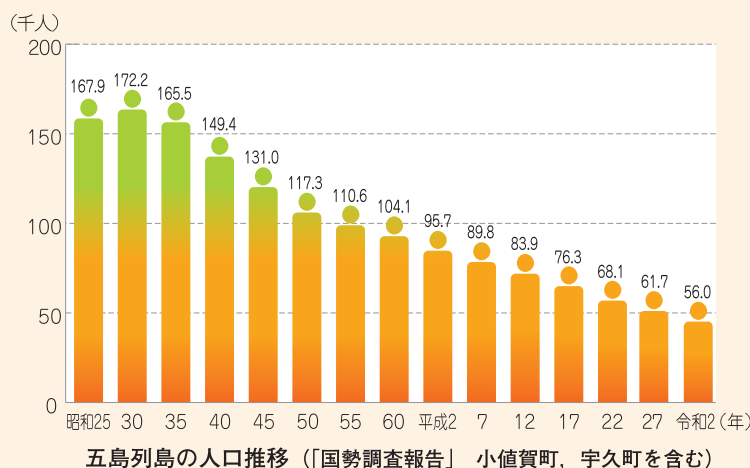
第2次産業 3,370人

第3次産業 17,946人

産業別就業人口の割合
(令和2年 五島市、新上五島町、小値賀町)
(総務省統計局「国勢調査」)

みんなで考えてみよう!
五島列島にはどのような産業が発達しているのだろうか?

MEMO



ソラマメ栽培等に取り組み、作物の多様化が進められている。漁業においても、稚魚を放流する栽培漁業をおこなったり、魚のす

む人工魚礁を海底にしずめ資源の確保に努めたりしている。五島市玉之浦町、奈留町、新上五島町の若松地区では、まぐろの養殖が盛んである。さらに、新上五島町の上五島地区、新魚目地区、有川地区のうどんや焼あご、五島市の富江町のさんご、三井楽町の手づくりハム・ソーセージ、岐宿町のみそなど、どの町も農産物や海産物を生かした加工品づくりに力を入れている。

ウ 活気ある地域づくり

五島列島の人口は、1955(昭和30)年に約17万人であったが、年々減少し、2023(令和5)年10月現在は、^{*}52,703人となっている。特に、若い人の流出が多く、人口の減少は現在でもゆるやかに続いているが、若者の定着を目指した活気ある地域づくりに努力している。

長崎市や佐世保市と五島列島を結ぶ交通機関として、フェリーのほかに高速船が通うようになって、海路でも日帰りができるようになってきている。

島と島とを結ぶ橋の建設も進められ、1991(平成3)年に島民の



白良ヶ浜万葉公園

(提供:長崎県観光連盟)

(※小値賀町、佐世保市宇久地区の人口を含む)

MEMO

悲願であった若松島と中通島とを結ぶ若松大橋が完成して、物資の輸送など島民の生活が徐々に便利になっている。

また、美しい自然や特色のある歴史を生かした観光産業に力を入れている。例えば、五島市や新上五島町奈良尾地区では、住民をあげてトリアスロン大会に取り組み、五島市三井楽町では、白良ヶ浜万葉公園を整備し、「西のはて万葉の里づくり」を、佐世保市宇久町では、宇久氏の祖である平家盛にちなみ「平家の里づくり」を通して活性化をはかっている。一方、新上五島町の青方湾には、1988（昭和63）年に上五島国家石油備蓄基地が完成した。ここでは、わが国の石油使用量の7日分を蓄えることができる。

(8) 壱岐市

ア 玄界灘に浮かぶ島

玄界灘に浮かぶ壱岐は、博多港（福岡県）から76km、唐津東港（佐賀県）から42km離れた南北約17km東西約15kmの島で、4町に分かれていたが、2004（平成16）年3月に合併し、壱岐市が誕生した。

島は山地が少なく、最も高い山が標高212.9mの岳ノ辻（郷ノ浦町）で、比較的平らな島である。

島内には、谷江川と幡鉾川が流れており、幡鉾川流域には県内有数の平野（深江田原）が広がり水田が開かれている。

海岸は断崖も見られるが、出入りが多く自然の良港となっている。

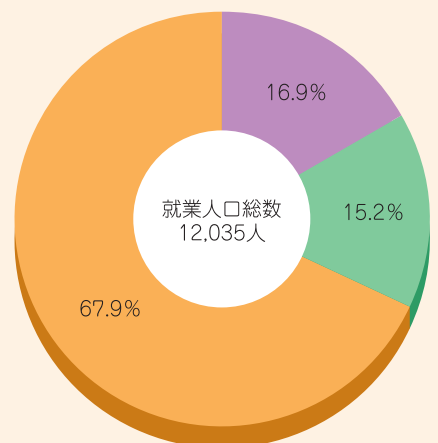
イ 人口密度の高い島

壱岐の産業は、米、肉用牛、葉たばこを中心とする農業と、近海に好漁場をもつ水産業が中心である。

農業は、深江田原をはじめとする平地にめぐまれ、土地利用も耕



壱岐市



第1次産業	2,038人
第2次産業	1,824人
第3次産業	8,173人

壱岐市産業別就業人口の割合（令和2年）
（総務省統計局「国勢調査」）

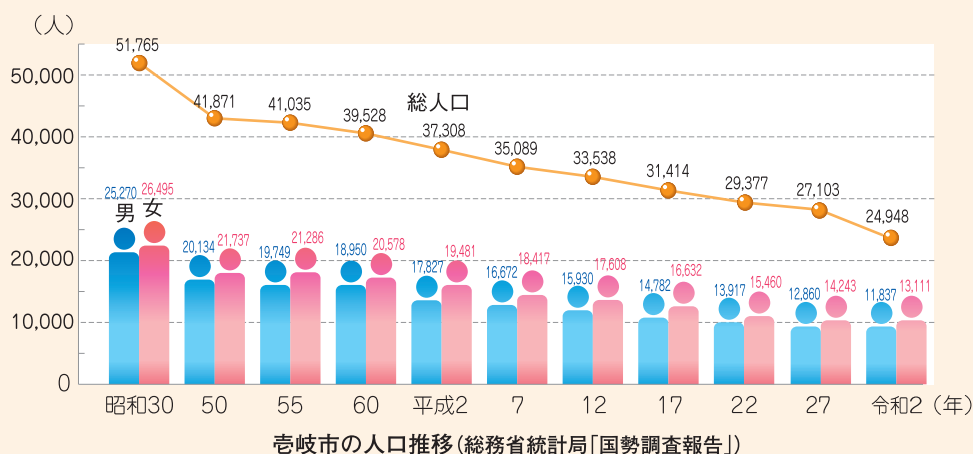
みんなで考えてみよう!

壱岐にはどのような特色があるのだろうか？

みんなで考えてみよう!

壱岐にはどのような産業が発達しているのだろうか？

MEMO



地が約27%（令和3年度）と他の島に比べて高い。また、かんがいや耕地整理などが完了し、農作業機械の大型化、共有化が進み、県内有数の穀倉地帯となっている。

さらに、地元生産物の消費の拡大や地域での就業機会の確保をすすめるグリーン・ツーリズムなど、地域の特性をいかしたユニークな取組が行われている。

水産業は、近海的好漁場を背景に、いか、ぶり、まぐろ、たいなどの一本づりをはじめ、延縄、定置網およびうに・あわび漁が営まれている。

壱岐市の人口は、1955(昭和30)年をピークに年々減少してきているが、2023(令和5)年10月現在は23,371人で、人口密度は約168人/k㎡となっており、県内の島の中では高い。これは、この島が平地にめぐまれていることや、農業や漁業がしやすい環境にあることなどによる。

ウ 自然をいかした町おこし

猿岩（郷ノ浦町）や左京鼻（芦辺町）などの海岸の景色はすばらしく、国定公園や海域公園地区にも指定されている。島内には温泉があり、歴史的遺跡も多く、関東や関西からの高校生や中学生が修



壱岐～福岡間に就航しているフェリー(右)とジェットフォイル(左)

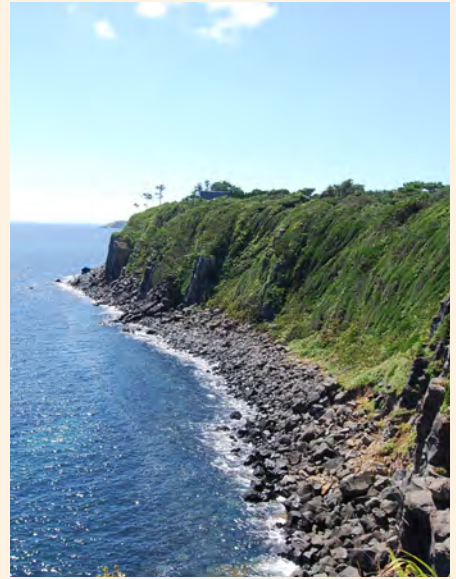
(提供:九州郵船株式会社)

MEMO



猿岩

(提供:長崎県観光連盟)



左京鼻

(提供:長崎県観光連盟)

学旅行におとずれている。休日には島内外からの多くのつり人でにぎわい、観光客を受け入れるための民宿が多いことも、この島の特徴である。

壱岐の特産品の焼酎^{しょうちゅう}は、昭和60年ごろのブームにより、全国的に広まった。また、いか、魚、海草、うにの加工が盛んであり、各地に出荷^{しゅっか}されている。

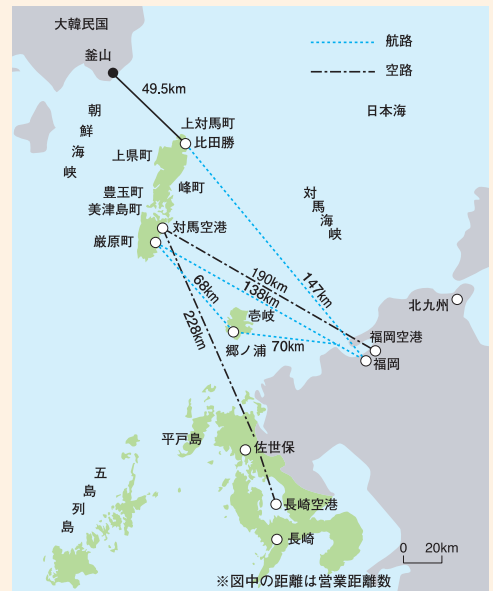
年中行事の主なものとして、郷ノ浦町の祇園山笠^{ごうのうらぎおんやまがき}、勝本町の港まつり大会^{かつもと}、芦辺町的美濃の谷参り^{あしべみのたにまい}、石田町の盆綱引き^{いしだぼんつなひ}などがある。最近では、全島をあげて壱岐サイクルフェスティバルなどのイベントをおこなって、島おこしをはかっている。

(9) 対馬市

ア 大陸に近い島

対馬市は、人口26,654人(令和5年10月)のまちであり、日本海の西の海上に浮かぶ島で九州の最北端に位置している。南北約82km、東西約18kmの細長い島で、平地が少なく、山地が島全体の89%をしめている。集落は、入り江に面した低地を中心に発達している。

上島^{かみじま}と下島^{しもじま}の間にある浅茅^{あそう}



対馬の位置

みんなで考えてみよう!
対馬にはどのような特色があるのだろうか?



浅茅湾

(提供:対馬観光物産協会)

湾は、出入りの多い代表的なリアス海岸で、魚や真珠などの養殖が盛んである。

冬は、北西からの季節風を受けて寒冷である。西海岸では、この強い季節風を防ぐために家のまわりを囲む石

垣や対馬独特の石屋根が見られる。

動植物は、大陸系のものが多く見られ、ツシマヤマネコやツシマテン、ツシマジカなどは、対馬にしか生息していない動物である。特に、ツシマヤマネコは、沖縄のイリオモテヤマネコと並び貴重な動物である。絶滅の危機から守るため、1971(昭和46)年に国の天然記念物に指定された。

島内各地には、縄文時代や弥生時代の遺跡が多く分布している。「魏志」倭人伝には、対馬の地形の特色や当時の生活のようすが書かれており、古くから、対馬は大陸との交通の要所として重要な役割を果たしてきたことがわかっている。

戦後、離島振興法の成立(1953年)などによって生活基盤の整備が進み、縦貫道路の開通、大型フェリーやジェットフォイルの就航、対馬空港の開港(1975年)など、交通網の整備がはかられ、長崎や福岡との交通が便利になった。

イ 自然を生かした産業

かつて対馬は、厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町の6町で構成されていたが、2004(平成16)年3月に合併し対馬市が誕生した。現在でも、島を囲む海や山の多い地形を生かした産業の振興に取り組んでいる。

水産業は、対馬を代表する産業で、特にあなご類の漁獲量は全国第2位(平成30年)である。近年は、「とる漁業」だけでなく、魚礁をつくったり、まぐろの養殖をおこなったりして、「育てる漁業」に力を入れ、水揚げ量の増加に努めている。

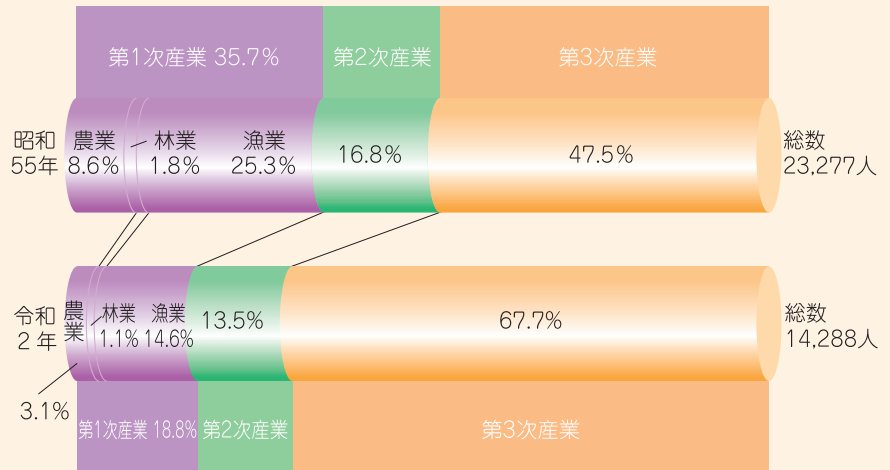
また、うに、いか、あじ、ひじきなどの加工も盛んになってきている。しかし、輸入水産物の増加や、後継者不足などの悩みも抱えている。

MEMO

みんなで考えてみよう!

対馬にはどのような産業が発達しているのだろうか?

MEMO



対馬市産業別就業人口の割合の推移(総務省統計局「国勢調査」)

林業では、めぐまれた自然条件と豊富な原木資源を生かし、しいたけ栽培が盛んである。原木栽培によるほししいたけの生産量は県全体のほぼ100%(令和3年)をしめ、品質も良く、特に「どんこ」(肉厚のほししいたけ)は有名である。

生産者は防風ネットや散水施設を整備したり、成育の段階で一つ一つビニールのふくろかけをするなどして、品質の向上に努めている。



しいたけ栽培

(提供:県林政課)

ウ 新しい動き

朝鮮との外交・貿易に関する記録を多く有し、交流の歴史を今に語る「対馬宗家関係資料」が2012(平成24)年9月に国の重要文化財に指定された。



朝鮮通信使行列

(「朝鮮国信使絵巻」提供:長崎県対馬歴史研究センター)

現在も対馬は大陸に近い国境の島としての地理的条件を生かし、韓国との交流を深めながら、地域の活性化に努めている。ホームステイ、日韓交流シンポジウム、ハングル講座や韓国への修学旅行など、特色ある活動をおこなっている。

また、2003（平成15）年度からスタートした離島留学制度では、対馬高校に韓国語や韓国の歴史・文化などを学習する国際文化交流科を設けている。このコースは日韓のかけ橋となる人材を育てることをめざしている。

◎高校生の離島留学制度

- 五島高校：スポーツコース
- 壱岐高校：東アジア歴史・中国語コース
- 対馬高校：国際文化交流科
- 五島南高校：夢トライコース
- 奈留高校：イングリッシュ・アイランド・スクール・コース

